

平成26年度 行政視察報告書

平成27年2月16日

視察先：広島県廿日市市議会

視察内容：議会広報の編集について

議会広報・情報公開対策特別委員会

坪内涼二 ・ 鍛治恵巳子 ・ 小林博昭

多田伸治 ・ 島田修二 ・ 田中直文

廿日市市議会 視察報告

議会広報・情報公開対策特別委員会
委員 坪内 涼二

廿日市市議会では、手に取ってもらえるための仕掛け、工夫している点として①表紙の重要性、②写真のインパクト、③特集記事を組むことで、「読んでもらえる」以前の「手に取ってもらえる」ことに照準を充てて議会だよりづくりを行っている。

読んでもらいたい層（ターゲット）を若い世代に設定し、市民と市議会の対談を特集化しており、議案は全て掲載するのではなく3つにピックアップし、文字数も極力減らし、簡潔に分かりやすさを心掛けている。一般質問についても1ページに4人と少ない。

感想としては、議会で行われていることの全てを市民の皆様に伝えようとしていないことであり、情報を取捨選択し、より必要なものだけを分かりやすく伝えることに特化している点である。一方で、江津市議会では行っている、議決結果の掲載や賛成・反対討論を行った議員名の掲載がされておらず、どの議員がどのような考えをもって議決に挑んだのか分からない内容であり、廿日市市議会においても今後は、議決結果や賛成・反対討論を行った議員の名前を掲載することを検討している。

また前提として一般質問など議会の様子をホームページに録画配信しており、議会だよりで得られない情報はそういった方法により、取得できる環境が整備されていることである。江津市議会においては、録画配信が行われていないため単純に議会だよりに掲載すべき内容を圧縮、削減する稚拙な変化は逆に情報公開に逆行するおそれがあるため、録画配信等の他の媒体を活用した情報公開が担保された上で読みやすい議会だよりへのリニューアルが必要であると感じた。

江津市議会議会広報・情報公開対策特別委員会（議会だより編集委員会）として、単に議会だよりの編集に終始するのではなく、議会だよりを情報公開の1つの手段として、あらゆる情報公開推進策について議論、実践していく必要があることを再認識した。



議会広報情報公開対策特別委員会行政視察報告

2月16日 政友クラブ 鍛治恵巳子

廿日市市の議会広報活動における議会だよりのあり方についてご説明いただきました。

廿日市のみなさんは、マニフェスト大賞優秀賞を受賞されたあきる野市の議会だよりを視察参考にされ、そして視察より半年でリニューアルを決定されるという素早い対応で、今の形にまで改良を重ねてこられたようです。

委員長がこだわるところ、「余白」はとても効果的に使われているし、記事も優先して伝えたいことをピックアップして、あとは写真、色彩、を効果的に使い、手に取ってもらえる議会だよりを実現されていました。

- * 若い人にも読んでもらえるようターゲットを絞る（迷いはたちきって）
 - * 議会・議員を身近に感じてもらう戦略特集記事・表紙は関連する個人の写真！！
 - * 内容記事のピックアップ（いる・いないの分別をつける）
 - * 議会だよりの取り組みの早さ・本会議1日目のあとから役割分担をしている。
 - * 委員の作ったフォーマットに落とし込んですぐに印刷に出せるようにしている。（印刷費@1. 134円という安さには驚き）作業の効率化
 - * 字体はゴシックにしている。
- いいところはさっそく真似て、3月議会のあとの議会だよりに取り入れられたらと思っています。

議会だよりは、一方的に発信するのではなく市民は何を知りたいのか考え市民の声に
応えるように作成する事が需要と思える。そしてまず手にとつてもらい、開いても
らい読んでもらえる議会だよりしていく必要性を感じた。

小林博昭

議会広報・情報公開対策特別委員会の視察報告

多田伸治

2月16日、廿日市市議会広報広聴特別委員会を対象に、「市議会だより」の編集について視察を行いました。

廿日市市議会の発行する議会広報「さくら」は、昨年から紙面がリニューアルされており、市民と市議会との交流を特集するページを設け、市民の声を紙面に反映させています。それを受けて、表紙も読み手が「まず手に取ること」を目的に、注意を引くよう個人に焦点を合わせたものとなっており、特集ページで取り上げた人をお願いし、登場していただいているとのことでした。

また、紙面では余白を多めに取るとともに写真を大きくし、読み手が「読む気になれる」ようにしており、そのために掲載する情報を取捨選択し、読み手である市民が関心を持つものや伝えなければならないものに絞っての編集が行われていました。

「市議会だより」を見た廿日市市議からは、文字が多く読み手に敬遠される、写真が少ないとの指摘を受けました。一方で、「さくら」では掲載されていない、議決への賛否表や賛成・反対の討論が討論を行った議員名も含めて掲載されていることについては、評価してもらえました。また、一般質問については、「市議会だより」の方が扱いが大きく読みやすいと感じました。

廿日市市議会の「さくら」も、リニューアルの際には他市の議会広報を参考にしており、「さくら」を模倣することで「市議会だより」の紙面が良くなるのであればと、「さくら」の編集データをいただきました。

4月末には3月定例会の内容を報告する「市議会だより」が発行されますが、すでに若干のリニューアルを行う編集が施されています。市民から「市議会がなにをやっているのか全然知らない」というような意見をいただくことのないよう、「市議会だより」を手にとって読んでもらえる紙面をつくることを心がけ、編集にあたりたいと思います。

議会広報・情報公開対策特別委員会行政視察報告

島田 修二

平成27年2月16日

広島県廿日市市議会

〈視察内容〉

説明は、廿日市市議会議会広報広聴特別委員会の正副委員長及び担当の委員に、事前に提出した質問事項に沿って回答をいただき、パワーポイントを使ってリニューアルの概要について説明を受けた。

廿日市市では、「読んでもらえているか」という疑念とともに、委員の固定化や拘束時間の長さ、編集作業の負担感が大きくなっていった。そんな中で議会報のリニューアルをしたあきる野市を視察し、廿日市議会ではあきる野市議会報を参考に、昨年の8月号から、議会だよりを大幅にリニューアルした。

(1) 特徴・工夫した点

【表紙の重要性・興味を引く特集】

- ・号ごとに子育てママや若手農業者などターゲットを変え、時間をかけてすべての層にリーチするよう、戦略的に特集を組み、それに連動した表紙にする。
- ・まずは読んでもらいたい層の若手にターゲットを絞って取り上げる。
- ・人物をアップで、紙面全面を使ってインパクトのあるものに。

【議案を3つピックアップ】

- ・簡潔に分かり易く説明

【動線・ホワイトスペース・統一感】

- ・読む際の目の動線を考えながら文章を配置する。
- ・余白を、読みやすくするために必要なものとして、意識的に配置する。
- ・デザイン・フォントに統一感を持たせ、読みやすくさせる。

【裏表紙】

- ・裏表紙に高校生の活動の紹介コーナーを設けて、議会広報誌が持つ堅いイメージを払拭し、読者に親近感を持ってもらう。

(2) 質疑応答・意見交換

Q：江津市の議会だよりを見て端的な感想を

A：議案など、全部載せなくてもいいのでは。

型にはまりすぎている。余白を大事に。文字は紙面の6割で十分。

字体をいろいろ変えているが統一した方が読みやすい。廿日市はすべてゴシックにした。

Q：広報広聴特別委員会だが両方の仕事をしているのか。

A：今は編集作業のみの状態。

Q：毎号の特集は、ターゲットを選定して特集を組んでいるとのことだがそのテーマの決め方、インタビュー場所、人選についてはどのように行っているか。表紙写真を一人に絞っているがどうやって決めるのか。

A：読み手に立って、今何が読みたいかキャッチ。少人数なので報告会みたいに構えずに話ができ、議員を身近に感じてもらうチャンス。

各号の担当の班であらかじめ特集記事を決めておき、執行部に団体を紹介してもらおう。イベントなどで集まるときなど、出向いていく。表紙は特集記事の人の中から自薦や他薦。なおインタビューは編集委員の議員が行うが、なるべく議員が前面に出ないように配慮している。

Q：一般質問の原稿の質問数や文字数の制約はどのようになっているのか。

A：指定のフォーマットに収まる文字数。質問数は基本1つ。他の質問は項目のみ最後に載せる。基本本人が書いて、同じ会派の委員がチェック。最終的には全委員で目を通し、趣旨が違っているようなら同じ会派の委員が修正して、本人に了解を取る。

Q：裏面の「きりり高校生」コーナーではなぜ小中学生でなく高校生か。

A：小中学校は、広報などでも取り上げられる機会が多いが、高校はあまりないので、スポットを当てた。各高校から原稿は上げてもらうので、議員の負担はない。部活はたくさんあるので、毎号学校を替えても何周でもできる。

Q：編集委員の特典などないか。利益誘導的な

A：あくまで市議会だよりは公的なものなので、公平さを第一にしなければならない。それは、自分たち個人で出している「議会だより」ですればいいことで、特定の議員が前面に出てはいけない。

(3) 考察

今回の視察を通じて、市民に議会広報を手にとって読んでもらうにはどのようなことに配慮して編集を行うべきか多くの事例を学んだ。

廿日市市議会だよりは「読みやすさ」についても様々な配慮をしている。

余白の取り方、動線や統一感（デザインやフォント）など見た目の読みやすさはもちろん、記事内容についても「行政用語を通じる言葉に」「知らせたいことと知りたいことの差」「読んでほしい量と読める量の差」というポイントを重視し、読み手の立場に立った編集を行っている。

もちろん、本議会だよりにおいても、「読みやすく」することは常に意識していたものの、どちらかといえば内容の正確さに比重を置いていた感がある。内容を正確に伝える事は重要ではあるが、ときとしてそれが「長い議案の名称全文を示す」ことであつたり、「審議された内容を可能な限り書き起こす」ことであつたりするなど、

読み手の都合より、書き手の伝えたい気持ちを優先する場面もあったと考える。

委員会審議の報告や記事全般のあり方などを含め、どのように構成したら読み手にとって受け入れられやすくなるのか、さらなる検討を進めていく必要がある。編集委員会の中で議論を深めたい。

H 2 7 年 2 月 2 3 日

1 4 番 議 員 田 中 直 文

議会広報委員会行政視察報告

所 見

「議会だより」の編集の在り方、内容について、かねてから検討の余地ありと言われており、この度の視察は見直しの良い機会となった。

手に取りやすい、見やすい、分かりやすい内容のある紙面を目指すことが前提であることを再認識する。

今回、質問事項をあらかじめ提示していたので、話の展開がスムーズにいき、具体的な取り組みや内容を聞くことができた。

その中で、見やすさ—(余白の活用)、編集作業—(インデザインの導入)、コスト面—(ページ数・2色刷り)、印字体などを検討する必要があると感じた。今後、編集委員で集約し、創意工夫によって市民に分かりやすい議会情報の提供を計っていきたい。

廿日市の3名の議員さん、議会事務局員の皆さんの対応は“おもてなし”の気持ちでしっかり伝わり感謝している。見習う点でもある。